

【表紙】

【提出書類】	訂正発行登録書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年2月16日
【会社名】	鹿島建設株式会社
【英訳名】	K A J I M A C O R P O R A T I O N
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 兼 社長 押 味 至 一
【本店の所在の場所】	東京都港区元赤坂一丁目3番1号
【電話番号】	03(5544)1111 代表
【事務連絡者氏名】	財務本部資金部長 三 上 幸 彦
【最寄りの連絡場所】	東京都港区元赤坂一丁目3番1号
【電話番号】	03(5544)1111 代表
【事務連絡者氏名】	財務本部資金部長 三 上 幸 彦
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】	社債
【発行登録書の提出日】	2024年12月16日
【発行登録書の効力発生日】	2024年12月24日
【発行登録書の有効期限】	2026年12月23日
【発行登録番号】	6 - 関東 1
【発行予定額又は発行残高の上限】	発行予定額 100,000百万円
【発行可能額】	80,000百万円 (80,000百万円) (注)発行可能額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額 (下段()書きは発行価額の総額の合計額)に基づき算出した。
【効力停止期間】	この訂正発行登録書の提出による発行登録の効力停止期間は、2026年2月16日(提出日)である。
【提出理由】	2024年12月16日に提出した発行登録書の記載事項中、 「第一部 証券情報 第1 募集要項」の記載について訂正 を必要とするため及び「募集又は売出しに関する特別記載事 項」を追加するため、本訂正発行登録書を提出する。

【縦覧に供する場所】

鹿島建設株式会社 関西支店

(大阪市中央区城見二丁目 2 番22号)

鹿島建設株式会社 中部支店

(名古屋市中区錦二丁目20番15号)

鹿島建設株式会社 横浜支店

(横浜市西区みなとみらい三丁目 3 番 3 号)

鹿島建設株式会社 関東支店

(さいたま市大宮区大門町二丁目118番地)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

株式会社名古屋証券取引所

(名古屋市中区栄三丁目 8 番20号)

【訂正内容】

第一部【証券情報】

第1【募集要項】

<鹿島建設株式会社第53回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（ネイチャーボンド）に関する情報>

1【新規発行社債】

（訂正前）

未定

（訂正後）

本発行登録の発行予定額のうち、金10,000百万円を社債総額とする鹿島建設株式会社第53回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（ネイチャーボンド）（以下「本社債」という。）（別称：鹿島建設ネイチャーボンド）を、下記の概要にて募集する予定であります。

各社債の金額 ：金1億円

発行価格 ：各社債の金額100円につき金100円

2【社債の引受け及び社債管理の委託】

（訂正前）

未定

（訂正後）

社債の引受け

本社債を取得させる際の引受金融商品取引業者は、次の者を予定しております。

引受人の氏名又は名称	住所
S M B C 日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番1号
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号

3【新規発行による手取金の使途】

(1)【新規発行による手取金の額】

(訂正前)

未定

(訂正後)

本社債の払込金額の総額10,000百万円（発行諸費用の概算額は未定）

(2)【手取金の使途】

(訂正前)

設備資金、投融資資金、研究開発資金、運転資金、借入金返済資金、社債償還資金及びコマーシャル・ペーパー償還資金に充当する予定であります。

(訂正後)

設備資金、投融資資金、研究開発資金、運転資金、借入金返済資金、社債償還資金及びコマーシャル・ペーパー償還資金に充当する予定であります。

なお、本社債発行による手取金は、全額を「グリーン/ネイチャーボンド フレームワーク」（下記「募集又は売出しに関する特別記載事項」に記載）のネイチャー適格クライテリアを満たす、自社保養所「KX-FOREST KARUIZAWA」の建設資金のリファイナンス及び東北支店ビル建替え資金に充当する予定であります。

「第一部 証券情報 第2 売出要項」の次に以下の内容を追加します。

【募集又は売出しに関する特別記載事項】

<鹿島建設株式会社第53回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（ネイチャーボンド）に関する情報>

1 ネイチャーボンドとしての適合性について

当社は、本社債をネイチャーボンドとして発行するにあたり、当社のグリーン/ネイチャーボンド フレームワーク（以下「本フレームワーク」という。）の「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2025」（注1）、「Sustainable Bonds for Nature: A Practitioner's Guide」（注2）及び「グリーンボンドガイドライン（2024年版）」（注3）への適合性について、株式会社格付投資情報センター（R&I）からセカンドオピニオンを取得しております。

（注1）「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2025」とは、国際資本市場協会（以下「ICMA」という。）が公表したグリーンボンドの発行に係るガイドラインをいい、以下「グリーンボンド原則」といいます。

（注2）「Sustainable Bonds for Nature: A Practitioner's Guide」とは、ICMAが、グリーンボンド原則等に基づき、ネイチャーボンドの発行に関わる主要な構成要素、環境への影響を評価する方法等に関する情報を提供するために2025年6月に策定・公表した国際的な実務者ガイドをいいます。

（注3）「グリーンボンドガイドライン（2024年版）」とは、グリーンボンド原則との整合性に配慮しつつ、市場関係者の実務担当者がグリーンボンドに関する具体的対応を検討する際に参考とし得る、具体的対応の例や我が国の特性に即した解釈を示すことで、我が国におけるグリーンボンド市場の健全かつ適切な拡大を図ることを目的に環境省が2017年3月に策定・公表し、2024年11月に最終改訂したガイドラインをいいます。

2 グリーン/ネイチャーボンド フレームワークについて

当社は、「鹿島環境ビジョン2050plus」をはじめとする当社グループの方針のもと、持続可能な社会の実現に向けて事業を通じて貢献することを目指しています。この度、「鹿島環境ビジョン2050plus」において再構築した目標や行動計画をファイナンスの側面からも推進すべく、本フレームワークを策定しました。

1．調達資金の使途

本フレームワークに基づき発行する債券により調達された資金は、以下の適格クライテリアのいずれかを満たす業務用不動産に関する新規又は既存の投資資金又は支出（開発、建設、改修、取得、借換等）に充当し、資金の充当先に応じて以下の種類のファイナンスを実施します。

種別	内容
グリーンボンド	グリーン適格クライテリアのみを資金使途とする債券
グリーン/ネイチャーボンド	グリーン適格クライテリア及びネイチャー適格クライテリアを資金使途とする債券
ネイチャーボンド	ネイチャー適格クライテリアのみを資金使途とする債券

<グリーン適格クライテリア>

プロジェクトカテゴリー	適格クライテリア
グリーンビルディング/ エネルギー効率	<p>以下のいずれかのグリーンビルディング認証を取得済み・更新済み又は取得予定・更新予定、又は省エネルギー性能を満たす物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CASBEE-建築（新築、既存、改修）又はCASBEE不動産:Sランク、又はAランク ・DBJ Green Building 認証：5つ星、4つ星又は3つ星 ・LEED-BD+C又はLEED-O+M認証：Platinum、Gold又はSilver ・BELS（令和6年度基準）：レベル6又はレベル5 ・ZEB：ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready又はZEB Oriented ・ZEH：ZEH、Nearly ZEH、ZEH Ready又はZEH Oriented ・建築物の省エネ性能を示す指標（BEI等）がZEB基準の水準相当を満たしていること

<ネイチャー適格クライテリア>（注4）

プロジェクトカテゴリー	適格クライテリア
生物多様性保全	<p>以下のいずれかの生物多様性に配慮したまちづくり・環境創出の認証を取得済み又は取得予定・更新予定の物件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SITES認証 ・ABINC認証 ・SEGES認証 ・JHEP認証 ・優良緑地確保計画認定制度（TSUNAG）認定：トリプル・スター又はダブル・スター ・自然共生サイト認定
自然資源・土地利用の持続可能な管理	持続可能な森林経営に関する事業

（注4）ネイチャー適格クライテリアはグリーン適格クライテリアでもあります。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

当社の財務本部及び経営企画部、開発事業本部が、当社グループの方針との整合性や、鹿島環境ビジョン2050plusの取り組みへの貢献度を協議した上で、適格クライテリアに適合する充当代象プロジェクトを選定し、当社代表取締役社長が最終的に承認します。

また、適格プロジェクトが環境・社会に与えるネガティブな影響とリスクの低減のために以下について対応していることを確認します。

- ・適格プロジェクトの物件所在地の地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- ・適格プロジェクトの開発、建設、改修、取得にあたり地域住民への十分な説明の実施

3. 調達資金の管理

調達資金の充当と管理は当社の財務本部資金部が行います。グリーン/ネイチャーボンドの発行残高がある限り、資金部にて、適格プロジェクトの予算と実際の支出を四半期単位で管理する社内ファイルシステムを使用し、これにより調達資金の充当額及び未充当額を確実に追跡します。調達資金は発行後、充当可能な時期に充当予定です。調達した資金は、適格プロジェクトに充当されるまでの間、現金又は現金同等物で管理します。

4. レポーティング

資金充当レポーティング

当社は調達資金が全額適格プロジェクトに充当されるまで、調達資金の充当状況を示すレポートを当社ウェブサイトにて年1回、以下の内容を公表します。

- ・適格クライテリアを満たす物件ごとの充当済金額
- ・充当済金額の合計
- ・未充当額及び充当予定時期
- ・調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額又は割合

当社はさらに、調達資金の全額が適格プロジェクトに充当された旨の証明を当社の財務担当役員から取得する予定です。充当状況の詳細に関する最初のレポートはグリーン/ネイチャーボンド発行から1年後に行う予定です。

インパクトレポーティング

当社は資金充当状況のレポーティングに加え、グリーン/ネイチャーボンドの償還までの間、実務上可能な範囲で同じレポートのなかで適格プロジェクトに関連する以下の指標を当社ウェブサイトにて年1回公表します。

<グリーン適格クライテリア>

プロジェクトカテゴリー	レポーティング指標
グリーンビルディング/ エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンビルディング認証の種類及び認証水準 ・GHG排出量、水使用量、エネルギー使用量等の数値情報

<ネイチャー適格クライテリア>

プロジェクトカテゴリー	レポーティング指標
生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> ・取得した生物多様性に配慮したまちづくり・環境創出の認証（種類・ランク） ・保全対象面積 ・保全対象動植物の種類数
自然資源・土地利用の 持続可能な管理	<ul style="list-style-type: none"> ・社有林からの算出材料の使用量（m^3）